

統一地方選を前に相次ぐ公認辞退、会派離脱

とうとう、民主党が足元から崩れ始めた。4月の統一地方選を前に、地方議員の公認・推薦の辞退や民主党会派を離れる動きが加速している。菅内閣の支持率は10%台に沈み、選挙は連戦連敗。なのに、執行部は誰ひとり責任を取らず、「小沢切り」に血道を上げていく。地方議員は菅執行部に怒り、呆れ、見切りをつけ始めている。



3・13名古屋市長選がトドメに

地方議員の間で加速する「菅・民主党離れ」

「自分はブレしていない。改革に後ろ向きな民主党が、どこかブレしてしまっただけではないか」
こう話すのは、東京・板橋の長瀬達也区議(34)だ。区議会会派「民主党・市民クラブ」に所属していたが、14日に退会届を提出した。

「名古屋市長の河村たかしさんが再選された翌7日から、河村市長との2連ポスターを張り出した。民主党が河村市長を『敵』

「自分はブレしていない。改革に後ろ向きな民主党が、どこかブレしてしまっただけではないか」
こう話すのは、東京・板橋の長瀬達也区議(34)だ。区議会会派「民主党・市民クラブ」に所属していたが、14日に退会届を提出した。

に、執行部は「全員当選が当たり前で落としても1人」と余裕しゃくしゃくしていた。しかも、現職ながら雨瀧たなかつた(民主党山形)には、なかなか公認が下りなかった。夫が民主党の中野謙衆院議員(44)埼玉14区)で、小沢支持の「一新会」に所属することも関係していたのかもしれない。結局、彼女が公認されたのは選挙直前。劣勢が伝わり、執行部がどこか候補を増やそう、と焦った結果です。あれだけが、民主党関係者が内情をこう説明する。

結果がすべて。この件について取材は受け付けていません」とのことだが、民主党関係者が内情をこう説明する。「昨年の市議選は本当にヒドかった。候補者は逆も、不信感が募ります」と風選挙を訴えていたの(前出の民主党関係者)

首相自ら候補者募集中 呼びかける情けなさ

菅首相の現在の選挙区選に向け、都道府県議会の武蔵野市でも、市議選で民主党ゼロの「空白区」解消を掲げ、3人区候補を取りやめ、もう1人区に複数候補を立てよう、と、1300人の擁立をプチ上げました。と

菅首相の「お膝元」も議会は、民主党が2議席集中」と呼びかけるポスターが張られている。この時期に現職首相が候補探しとは情けない限り。「岡田幹事長は統一地方

「私は河村市長の改革姿勢に共鳴しています。民立しながら、議席を5かだ。桐山市議は「市議選の